

直近の甲子園出場校		ドラフト関連速度	
21夏	新田	総合	C+
22春	—		
22夏	帝京五		
23春	—		
23夏	川之江		
24春	—	野手	投手
		C	C+

愛媛

7月13日(土)27日(土)坊っちゃんスタジアム(ほか)

林以外も140キロの壁を超えてきた！
トレンドは「スラッガー」と「俊足系」



本山大智(松山東)

投手編 林に続く多種多彩な投手が台頭

名門・松山商のエースという重圧を一身に受けながら成長を止めない最速144キロ右腕・林颯太。春まで彼に並ぶ球速を出す投手は力投派の同僚・大垣奏真のみだったが、現在は雨後のタケノコのごとく様々な投手が台頭してきた。

まずは独特のタテスライダーで三振奪取を狙う日野柊斗(松山工)。1年前は体重50キロ台のマッチ棒体形だったが、四国アイランドリーグplus・愛媛で選手、コーチを経験した田口大地監督の指導で増量に成功。球速も最速141キロまで伸びた。
質の高い最速141キロを誇る

のは本山大智(松山東)。「進路は医学部が東大で野球部に入るが悩んでいます。まずは甲子園を目指します」と吐露する秀才右腕の躍進に期待大だ。

「ようやく140キロが出るようになりまし」と河内康介(オリックス)を育てた浮田宏行監督が話すのが、有馬恵叶(聖カタリナ学園)。190センチという得難い身長をフル活用した角度の世界で実戦経験の薄さをカバーする。夏はクローザー起用が濃厚の日野翔貴(小松)も135キロを超える気迫のストレートが持ち味だ。

左腕では渡地琥太郎(今治西)の最速139キロ、常時130キロ中盤のストレートは力強さとキレを併せ持っており「スピードが

出たらドラフト上位を狙える」とNPBスカウト陣からも高く評価されている。ようやく最後の夏を前にケガから回復した呉屋龍星(松山聖陵)やまずは好調時のストレートの回転数を取り戻したい佐々木了(北宇和)なども注目投手の一角を占める。

2年生では140キロ到達目前の宇和島東の右腕コンビ・菊澤敬飛と川口颯太や小山晃生(松山聖陵)、重野育夢(新田)、130キロ前半でも空振り奪う左腕・田河悠斗(済美)が有望株。そして宇佐美球児(西条)は90キロ台のスローカーブから140キロ超のストレートまで緩急自在。順調に成長すれば、来年の夏には全国区の左腕になるはずだ。

愛媛の主な注目選手

守備	名前	所属	学年	身長	体重	投打	評価	コメント
投手	渡地琥太郎	今治西	3	174	67	左左	C+	ショートアームでキレのある139キロ。大学でパワーをつけドラ1を狙え
投手	宇佐美球児	西条	2	181	85	左左	B	ラブソードで最速143キロ、2,300回転を計測する将来性抜群の左腕だ
投手	日野 柊斗	松山工	3	180	65	右右	C+	130キロを超すタテスラが持ち味。最速140キロ超えて配球にも幅が出た
投手	林 颯太	松山商	3	174	76	右右	C+	「あのボールが打てない」と各校の監督が語る魔球カットボールを駆使
投手	本山 大智	松山東	3	175	82	右右	C+	2,270回転、回転効率94%で最速141キロ。火の玉ストレートの秀才
捕手	高岡 颯	宇和島東	3	165	69	右右	C	下級生投手をリードし、二塁送球も2秒を切る。小柄でも頼れる女房役
捕手	相曾 暁	松山学院	3	178	78	右右	C+	二塁送球ベストタイム1秒8もブレが大きい。連戦を闘うスタミナ必要
遊撃手	門屋 蒼	松山北	3	155	55	右右	C	一塁駆け抜け4台1秒を軽々出す元気印。国公立大現役合格超頭脳あり
外野手	櫻井 健大	宇和島東	3	177	66	左左	C+	全力疾走、全力プレーを貫く真の俊足好打者。あとはサイズアップを
外野手	江口 勇勝	小松	3	179	77	右左	C+	春に「全力プレー」の楽しさに気づく。俊足強打を全力で押し上げよう